

講義名		対)エイジングフィットネス論	
担当教員		関 和俊	
開講期・曜日・時限		前期 木曜日 1時限	授業形態 講義
履修開始年次		3年生	単位数 2 備考
主題と概要			
我が国は世界有数の長寿国であり、健康で長寿を享受する健康寿命が価値をもつ時代である。本講義では老化に伴う身体諸機能の変化、運動能力低下、高齢者にとっての体力・運動の意義、老化防止運動プログラムについて理解を深める。そして、自ら積極的に健康を維持するために方策についての理解を深めることを目的とする。			
到達目標			
新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通字が禁止となった学生には、「新型コロナウイルス感染症等の学校感染症への感染者または濃厚接触者に指定され、一時的に通字が禁止となった学生には、解除後に補講等で個別対応する。」 到達目標を以下に示す。 エイジング（加齢）に伴う身体機能の変化の知識を説明できる。 アンチエイジングと生活習慣（運動、食事、睡眠など）に関する基礎知識について説明できる。 中高年に対する運動の重要性と効果、また実践方法について理解できる。			
提出課題			
定期的にレポートを提出課題を課す。			
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック			
レポート課題に対して、適時、講評を行う。			
評価の基準			
授業態度（プレゼン）・理解度テスト：40% 小レポート：30% 筆記試験：30%			
履修にあたっての注意・助言他			
・レポート課題は、各自の講義内容に関する課題としますが、新聞などによる「健康」に関する情報にアンテナを張り、レポートに活かしてください。 ・身近な方（家族や親戚ら）の健康行動や健康状態を知り、本講義内容を活かしてください。			

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
適宜使用するプリント・参考文献を配布します。				
授業計画				
1. エイジングと身体活動の必要性について 2. 基礎：健康増進に必要な運動とは 3. 基礎：健康増進に必要な栄養とは 4. 基礎：健康増進に必要な体質とは 5. 身体活動・運動の社会環境対策とは 6. 健康を維持するための生活スタイル 7. 生活習慣病・メタボリックシンドロームとその予防（1） 8. 生活習慣病・メタボリックシンドロームとその予防（2） 9. ロコモティブシンドローム・フレイルとその予防（1） 10. ロコモティブシンドローム・フレイルとその予防（2） 11. 我が国の介護予防の取組みについて 12. アンチエイジングに関する事例研究（1）：プレゼン資料収集 13. アンチエイジングに関する事例研究（2）：プレゼン資料作成 14. アンチエイジングに関する事例研究（3）：プレゼン 15. エイジングフィットネスとは				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
<input type="checkbox"/>	ア：PBL（課題解決型学習）	<input type="checkbox"/>	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
<input type="checkbox"/>	ウ：ディスカッション、ディベート	<input type="checkbox"/>	エ：グループワーク	
<input type="checkbox"/>	オ：プレゼンテーション	<input type="checkbox"/>	カ：実習、フィールドワーク	
<input type="checkbox"/>	キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
予習：2時間 加齢に関する「健康（・問題）」の情報収集（新聞、メディア情報）をしておくこと。 復習：2時間 講義内で出てきたキーワードなどを調べ直し、レポートにまとめること。				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
高齢者における身体機能の変化、アンチエイジングに関する生活習慣、さらには運動の重要性とその効果についての基礎知識を身につけることができる。また、健康保持・増進に関わるプレゼンテーションする機会を設けるため、プレゼンテーション能力を養うことができるため、ディプロマポリシーの達成に貢献できる科目である。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
responやformsをコミュニケーションツールとして活用します。				
実務経験の有無及び活用				
備考				